

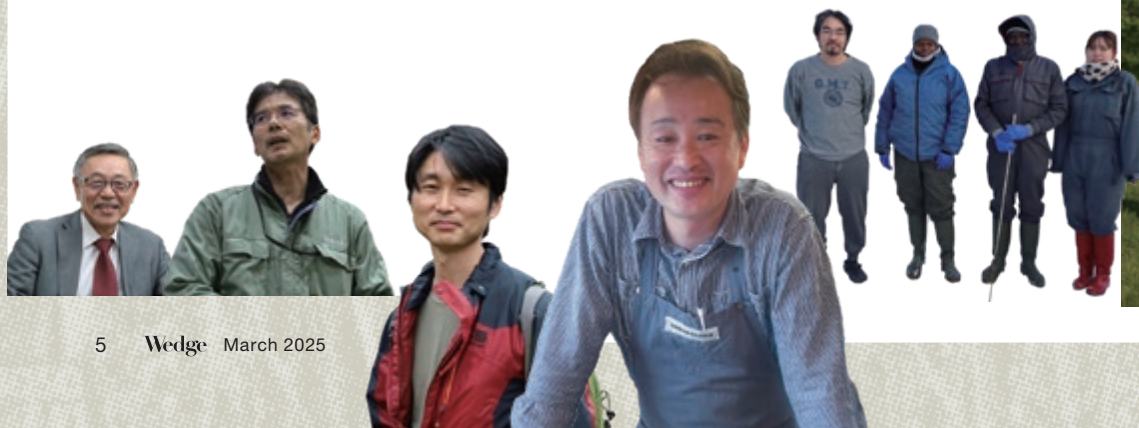
CONTENTS

WEDGE_SPECIAL_REPORT

18 食料危機の正体 日本の農業はもっと強くできる

- 20 **Part 1** 亡国農政のツケは国民に回る 食料途絶に備え減反廃止を
山下一仁 キヤノングローバル戦略研究所 研究主幹
- 25 **Interview** 「加工品」にも商機あり! 日本米を海外に売り込め
昆 吉則 『農業経営者』編集長
- 26 **Opinion 1** コメ農家は1000で足りる? 自分の頭で考える農業の実践を 編集部
- 28 **Part 2** 稲作に起こるブレークスルー コメ輸出拡大に挑む人々 編集部
- 31 **Opinion 2** 高騰する野菜は適正価格? 農家の組織化で競争力高めよ 編集部
- 32 **Part 3** 地球にしか存在しない宝物 「土」から考える食料の未来
藤井一至 森林総合研究所 主任研究員
- 36 **Part 4** 「肥料」も輸入頼みの日本 自衛策はあるのか? 編集部
- 38 **Opinion 3** 持続可能な農業へ 新たな道を拓く先駆者の挑戦 編集部
- 40 **Part 5** 輸入飼料には依存しない 「自分の足で立つ」酪農 編集部
- 46 **Part 6** 食料、エネルギー、シーレーン 安全保障戦略に横串通せ
兼原信克 元内閣官房副長官補、元国家安全保障局次長

ALAMY/PHOTODISC/GETTY IMAGES



WEDGE_OPINION

8 持続的な賃上げを契機に
「不都合な真実」の改革を

武田洋子 三菱総合研究所 執行役員兼研究理事

田中嵩大 三菱総合研究所 研究員

60 トランプ政権の政策を逆手に
原油の中東依存脱却を図れ

高橋雅英 中東調査会 主任研究員

WEDGE_REPORT

12 インテル、ラピダス、米中摩擦
2025年、半導体のゆくえ

杉山和弘 オムディア・コンサルティングディレクター

50 政権崩壊後のシリア
「モザイク国家」を歩く

村山祐介 ジャーナリスト

76 暗号資産狂騒曲
緩和か引き締め、日本の答えは？

山田敏弘 国際ジャーナリスト



- 58 **MAGA解剖** | 大野和基 国務長官 マルコ・ルビオ トランプの元ライバル 対中強硬派外交トップの素顔
- 63 **MANGAの道は世界に通ず** | 保手濱彰人 義務感のしがらみを突破する 人生を楽しむための思考法
- 66 **アンコール 天才たちの雑談** | あのSFは実現するのか? 加藤真平×暦本純一×瀧口友里奈×合田圭介×野村泰紀
- 80 **胃袋を満たしたひとびと** | 湯澤規子 やなせたかし (漫画家)
- 82 **偉人の愛した一室** | 羽鳥好之 近衛文磨「荻外荘」(東京都杉並区)
- 84 **日本病にもがく中国** | 富坂 聡 「福田ドクトリン」がモデルに 中国「一帯一路」推進の知恵
- 86 **時代をひらく新刊ガイド** | 稲泉 連 『透析を止めた日』 堀川恵子
- 90 **新幹線を支える匠たち** | 大坂直樹 「何も起きないこと」が我々の誇り 新幹線を守る警備のプロ (全日警)
- 93 **商いのレッスン** | 笹井清範 「カスハラ」を防ぐために必要な心構え
- 94 **フィクサー** | 真山 仁 第五章 逆襲
- 102 **モノ語り。** | 水代 優 19代続く変わらぬ味 岡崎カクキュー「八丁味噌」
- 75 各駅短歌 穂村 弘
- 87 一冊一会
- 89 拝啓オヤジ 相米周二
- 106 読者から／ウェッジから





北海道千歳市で建設中のラピダスの工場（2025年1月28日撮影）

昨年12月、衝撃が走った。米インテル最高経営責任者（CEO）のパット・ゲルシンガー氏が退任したのだ。7～9月の第3四半期決算で、同社は過去最大166億3900万ドル（約2・5兆円）の最終赤字となり、その責任をとった形だ。今年に

WEDGE REPORT

インテル、ラピダス、米中摩擦 2025年、半導体のゆくえ

日本では世界最先端を目指すラピダスが始動する。
日本、そして世界の半導体業界で注目すべき点は何か？



杉山和弘 Kazuhiro Sugiyama
オムディア・コンサルティングディレクター

昨 年インテルを退任したゲルシンガー氏の言葉から、その悔しさが滲みでている。「Today is, of course, bittersweet as this company has been my life for the bulk of my working career. (この会社は私の仕事人生の大部分を支えてきたので、今日という日はほろ苦い気持ちだ)」（インテルプレスリリース）。

その才能を見込まれ、ゲルシンガー氏は高校卒業後にインテルに入社し、初めての最高技術責任者（CTO）に就任した。その後、インテル

入り、24年通期でも約188億ドルの赤字が発表された。一方、日本では、世界最先端の2ナノメートル（nm、1ナノは10億分の1）の半導体を製造する工場を北海道千歳市で建設中のラピダスが、4月にも試作品を出荷する予定だ。1月20日には、トランプ氏が第47代大統領に返り咲き、米中摩擦の行方が注目を集める。英・調査会社のオムディアの杉山和弘氏に半導体を巡る論点を聞いた。（聞き手・構成／編集部 友森敏雄）

食料危機の正体

日本の農業はもっと強くできる

ロシアのウクライナ侵攻により、世界的に「食料危機」が懸念されるようになった。

それに対応するように、日本政府や農林水産省、JA農協などは食料危機をあり、多くの国民は戸惑っている。確かに、担い手の減少や農産物の価格高騰、肥料・飼料の不足など、日本の農業には課題が山積みだ。しかし、新しい技術や発想で未来を切り拓こうという動きもある。

日本の農業を強化し、真の「食料安全保障」を実現する方法を提示する。

山下二仁、昆吉則、藤井一至、兼原信克、編集部（鈴木賢太郎、友森敏雄、大城慶吾）





稲作に起こるブレークスルー コメ輸出拡大に挑む人々

コメの輸出が伸長しているが、足元では新たな課題も生じ、前途多難である。
しかし、コモディティーとしての輸出拡大に挑む人々もいる。最前線取材した。

文・編集部（鈴木賢太郎）

米カリフォルニアでは複葉飛行機で種もみを播いている。日本のコメは、海外産の低コストなコメと同じ土俵で戦わなければならない
JUSTIN SULLIVAN/GETTYIMAGES

コ

メの輸出が急速に拡大している。

農林水産省によると、2024年のコ

メの輸出額は前年比28%増の120億円、輸出量は21%増の4・5万トといずれも過去最高を更新した。

背景には、海外における日本食人気が高まりに加えて、21年の米カリフォルニアの干ばつの影響で、日本産米に切り換える飲食店が増えたこと、為替の影響で輸出に有利な環境であることがあげられる。

だが、足元では、悩ましい課題がある。全日本コメ・コメ関連食品輸出促進協議会（全米輪）専務理事の細田浩之氏は「昨年に起きた『令和のコメ騒動』の影響で、市場にコメが不足し、国内のコメの価格が高騰している。今後の価格動向次第では、25年のコメ輸出は減少する可能性がある」と話す。

根幹にあるのが、輸出を奨励する補助金の存在だ。政府はコメの輸出を加速させるため、新規市場開拓米として10㌦あたり4万円の補助金を出し、作付けの転換を促してきた。

コメは作付け段階から用途を限定することが義務付けられている。国内のコメの価格が高騰している現状を踏まえれば、輸出用米の生産を渋り、主食用米の生産を重視しようと考え、生産者が増加することは想像に難くない。

輸出相手国側の事情もある。そもそも国内のコメの生産量は約700万トであり、輸出に振り向けられているのは1%に満たない。世界のコメ消費量の約8割はインディカ米をはじめとした長粒種で、短粒種のジャポニカ米はマイナーだ。需要が低ければ、大幅な輸出拡大は望めない。農業政策に詳しい三菱総合研究所研究理事の稲垣公雄氏は「コメは国際相場で1ト約10万〜15万円だが、日本産米は今回の高騰前でも20万円以上、現状は40万円であり、穀物として売り出していくうえでは価格競争力はない」と指摘する。

中堅コメ卸の千田みずほ（横浜市）執行役員海外事業部長の陰山貞三氏は「コメ輸出の伸長は、海外の和食ブーム、円安などに負うところもあり、一般穀物として需要が高まって

地球にしか存在しない宝物 「土」から考える食料の未来

生物が生み出す「腐植」によって「土」は生み出される。その「土」がなければ食料を生産することができない。食料を考えるには、まずは土を知る必要がある。

聞き手／構成・編集部（友森敏雄）



山の恵みを得るだけでなく酸性土壌の克服にも役立つ水田

BUDDHIKAWERASINGHE/GETTY IMAGES

私たちが普段食べているものは、海産物もあるが、ほとんどは陸地、つまり「土」から得られるものだ。家畜も土から育った飼料を食べる。「土」は貴重だ。厚さ1センチメートルの「土」ができるまで日本で1000年、条件の悪い場所だと10000年もかかるという。そもそも「土」とは何か。土壌学者・藤井一至さんの最新著作『土と生命の46億年史』（講談社ブルーバックス）によれば、「土壌は岩石が崩壊した砂や粘土と腐植が混ざったもの」。「土なんてどこにでもある」と思ったら大間違いで、米宇宙航空局（NASA）も、これから目指す月や火星に「土」がないことで困っているのだという。しかも、生物が生み出す「腐植」の化学的な構



藤井一至

Kazumichi Fujii

森林総合研究所
主任研究員

1981年富山県生まれ。京都大学農学研究科博士課程修了。博士（農学）。『土 地球最後のナゾ』（光文社新書）で第7回河合隼雄学芸賞を受賞。著書に『大地の五億年』（ヤマケイ文庫）、近著に『土と生命の46億年史』（講談社ブルーバックス）。



朝

5時30分。取材班がその牧場に到着すると、搾乳を終えた牛たちが牛舎から道を挟んだ牧草地へとゆつくりと移動し始めていた。

「晴れの日も雨の日も放牧します。今日みたいに暑い日だったら、何も言わなくても牛たちは涼しいところを選んで行くし、台風の時でも木陰で雨風を凌いでいます。放牧していても、全く問題ありません。夜なんかは固まって寝ています。牛は賢いですよ」

こう語るのは、北海道北東部・紋別市の山あいにある「高森牧場」の高森秀樹さん（50歳）だ。

取材班が訪れたのは2024年6

輸入飼料には依存しない 「自分の足で立つ」酪農

Part
5

ウクライナ情勢のあおりを受け、酪農家の離農が相次いでいる。
輸入飼料に頼る酪農は限界だ。日本の酪農が進むべき方向とは？

文／写真・編集部（鈴木賢太郎）



北海道紋別市にある高森牧場。その面積は、東京ドーム8個分に相当する35㌔に及ぶ。5月上旬から雪が降り始める11月下旬までは牛を放牧している

WEDGE REPORT

政権崩壊後のシリア 「モザイク国家」を歩く

半世紀以上に及んだ独裁政権が突然崩壊した中東シリア。市民の間には、拷問と処刑による恐怖政治から解放された喜びと、過激派が主導する国づくりへの不安が交錯する。現地を訪れた筆者がその現状を報告する。

文／写真・村山祐介 Yusuke Murayama





加藤真平×暦本純一×瀧口友里奈×合田圭介×野村泰紀

天才たちの雑談 アンコール

～あのSFは実現するのか？～

かつて小誌で連載し、好評を博した「天才たちの雑談」が2023年2月号以来、約2年ぶりにアンコールとして復活！SFで描かれたような世界は実現するのか。様々な分野の「天才」たちが最新技術やアイデアからその可能性を`雑談`した。

構成・編集部（梶田美有） 撮影・さとうわたる

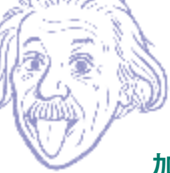
瀧口 今回は、これまでのシリーズで人気の高かった「SF」をテーマにして、「あのSFは実現するのか」という内容でお送りします。最新の研究や、先生方の発想から、「この設定はこういう形では実現しよう」「これは無理そう」という観点でお話を伺いたいと思います。

加藤 いいですね。SFは分かりやすいですし、意外とSFの世界を参考に行っている方も多いと思いますからね。

瀧口 まずは、他人の「感覚」を体験できるテクノロジーは実現するのか、というテーマについて考えたいと思います。

暦本 1980年代の映画『ブレインストーム』では、人間の記憶や知覚を他人に伝達できるマシンが開発されます。記録した「感覚」は保管することもできるので、装置をつければ、あらゆる追体験が可能になる。物語では、開発者が心臓麻痺を起こした際、死ぬまでの感覚を自ら記録して、それを体験するようになるか、と話が進むのですが……。

今、VRで視覚や聴覚は再現でき



ますが、例えば触覚などはまだ研究段階です。単純に「触った」という感覚であれば可能ですが、心臓麻痺のような、身体の中で「痛い」というような感覚を再現するのはまだ難しいという印象です。

野村 触覚以外にも嗅覚、「匂い」を追体験しようと思ったら、様々な物質が関係しているから再現が難しいですね。「匂い」自体を伝えるのではなく、同じ匂いを「感じる」ようにする方が早いのではないのでしょうか。

暦本 味覚に関していえば、それに近いものが実用化されています。皆さん、電池って舐めたことありますか？ 実は電気って「しょっぱい」んです。だから、減塩が必要な人向けに、電気刺激で塩味を足すスプーンがすでに開発されています。

味や匂いを構成している全てのケミカルを作り出すのは大変ですが、ケミカルを感じたセンサーという、神経の先の電気信号を再現するということは今後もあるかもしれないですね。

加藤 それを実装するデバイスとし

ては、体に外付けで装着する形になるのか、それとも脳に埋め込む形になっていくのでしょうか。

暦本 アメリカではすでにニューラルリンク社が脳インプラントの被験者の募集を始めています。ただ、外付けか埋め込みかは人によって受容性が異なるように思います。私は脳には埋め込みたいけど、コンタクトレンズのようなタイプだとどうしても怖いと思ってしまってます……。

瀧口 あらゆる感覚が体験できるようにになるとそれを売るビジネスも出てきそうです。

暦本 ウィリアム・ギブスンのSF小説『ニューロマンサー』には疑似体験をさせてくれる「疑験スター」

2
というのが出てきます。将来的には「大谷翔平のバッターボックス感覚が体験できるならいくらで買うか」みたいな話が出るかもしれません。



ブレインストーム
BRAINSTORM
監督：ダグラス・ランブル
主演：クリストファー・ウォーケン

野村 感覚をクリエイトする仕事も出てくるかもしれないですね。

暦本 生成AIでそうした体験をマッシュアップしたりできれば、「感覚エディター」とか、そういう職業ができるかもしれないですね。

脳ではない部分にも
記憶は宿っている？

瀧口 「脳」が感覚をつかさどっているということですが、「記憶」も

脳に依存するのでしょうか。

合田 SF映画の中では、脳に電気

暦本純一 Jun Rekimoto
東京大学大学院情報学環 教授

東京工業大学大学院理工学研究科情報科学科修士課程修了。博士（理学）。日本電気などを経て1994年よりソニーコンピュータサイエンス研究所に勤務し、現在フェロー・副所長・京都研究室ディレクター。2007年より現職。スマートフォン画面をマルチタッチで操作する「スマートスキン」を発明。

Yellow

信号を与えることで記憶の書き換えや、能力の移植が行われることがありますが、そもそも記憶が脳に保管されているのか自体、よく分かっていません。

UCLA（米カリフォルニア大学ロサンゼルス校）の研究で非常に興味深いものがあります。軟体動物のアメフラシAに電気信号を与え続けると、それが嫌なアメフラシAは逃げる動作をし、何度も繰り返すと逃げ方がうまくなる。そういう運動訓練をさせた後、アメフラシAのRNA（リボ核酸）を別のアメフラシBに移植し電気信号を与えたところ、Aと同じような動きをしたんです。つまり、アメフラシはRNAの中にも「運動記憶」がストレージされていたということです。

分かりやすく人間で例えるなら、



「トランプ劇場」に色めく暗号資産業界。その行方は……

WEDGE REPORT

暗号資産狂騒曲 緩和か引き締め、日本の答えは？

「トランプ2.0」で、米国は暗号資産の利用推進に大きく舵を切った。
その狙いは何か？ 日本への影響は？ 日米の業界関係者への取材を基にレポートする。



山田敏弘 Toshihiro Yamada
国際ジャーナリスト

主

要な暗号資産(仮想通貨)であるビットコインの価格が高騰している。昨年

11月、米大統領選でトランプが勝利してから上昇基調が続く、大統領に就任した1月20日には、史上最高額となる10万9000ドル(約1680万円)を突破した。

就任直前の1月17日には、トランプ自身が公認の記念暗号資産「\$TRUMP」を発行した。一気に話題をさらう、時価総額が一時150億ドルを超えるまでになった。そして就任3日目には、暗号資産の利用を推進する大統領令に署名。暗号資産が米国のイノベーションや経済発展に重要な要素になると強調し、ハワイトハウスに暗号資産諮問委員会の作業部会を設置することを明らかにした。

まさに暗号資産狂騒曲である。

そもそもトランプは暗号資産を「詐欺だ」と発言していたが、大統領選が本格化していた2024年6月、暗号資産専門家らとフロリダの邸宅で会談してから180度変節。「米国を暗号資産世界の首都にする」